

2018年1月12日

各位

株式会社 栗本鐵工所

自動車用樹脂製クロスカービームの実現に向けて

株式会社栗本鐵工所(本社:大阪市西区、社長:串田守可)は、この度、クロスカービーム等自動車構造体に適用できる熱硬化性樹脂を用いたガラス繊維強化プラスチック(GFRP)中空体の成形技術を確立しました。

世界規模で排出ガス規制が強化される中、自動車業界では低燃費エンジンの開発と並んで、自動車部品の軽量化が求められています。近年、部材の薄肉化などの限界から材料置き換えによる抜本的な軽量化が期待され、金属材料から繊維強化プラスチック(FRP)への置き換え等も幅広く検討されています。

そこで、弊社はガラス繊維を用いた引抜成形法※によりコストを抑え、自動車構造体に適用できる品質と軽量化の実現を目的とした製品開発を進めてまいりました。

この度、これまで培った弊社の要素技術を基に、基材構成及び繊維配向の最適化による中空体形状にて、30%以上の軽量化及びスチールと同等の強度を実現することに成功しました。本特許技術を活用することにより、GFRP中空体の自動車部品への適用範囲が広がるものと考えております。

今後更に、GFRP及び引抜成形法の特徴を活かし、あらゆる移動体の軽量化ニーズに貢献できる製品の研究開発に努めてまいります。

以上

※引抜成形法(Pultrusion Molding)

引抜成形は、樹脂を含浸させた強化基材を引抜き装置で引抜き、金型にて硬化させ、所定の長さに切断する成形方法で、同断面の連続成形が可能です。強化基材を切断しないため、引抜き方向の強度が高くなるのが特徴です。

本件に関するお問い合わせ
株式会社 栗本鐵工所 総合企画室
電話 06-6538-7719